

島尾伸三写真集『まほちゃん』

まほちゃん

同封の写真集『まほちゃん』が2001年11月20日に河出書房新社より発売となりました。下記の資料をご一覧の上、貴紙にてご書評、ご紹介いただけますよう、ぜひともよろしくお願ひ申し上げます。

島尾伸三写真集『まほちゃん』

発売日=11月20日/定価=¥2390(税別)

発行=オシリス/発売=河出書房新社

著者=島尾伸三(写真) エッセイ=島尾伸三、潮田登久子、しまおまほ

ブックデザイン=奥村鞆正

体裁=ハードカバー、上製/判型=A5判変型

総頁数=96頁/収録作品=モノクロ写真82点/印刷=ダブルトーン

(*情報掲載の場合は必ず発売元である「河出書房新社」をご記入下さい。書店より読者の方々が注文の際、発行元名だけでは取り寄せできないため、よろしくお願ひします)

本書の主な内容

●被写体となっている「まほちゃん」とは、現在まんが家・エッセイストとして活躍中のしまおまほさん。写真家であるお父さんの島尾伸三さんは、彼女の小さかった頃の日常を、淡々と記録していました。

被写体である「まほちゃん」とは、最近文庫化もされたマンガ『女子高生ゴリコ』の作者で、現在『H』『リラックス』などでも連載中の若い読者に人気のあるマンガ家・しまおまほさんです。お父さんで、この写真集の著者であり写真家の島尾伸三さんは、『星の棲む島』(岩波書店)、『季節風』(みすず書房)、『生活』(みすず書房)、『月の家族』(晶文社)など多くのエッセイ集を通して文筆家としても知られています。写真集『まほちゃん』は、彼女が幼児の時から小学校低学年ごろまでの写真を集めたものです。写真の頃に彼女が描いたイラストも収録。

●夢中になっての歯磨き姿、大好きなお絵かき、お母さんと一緒のお昼寝など、本書にはまほちゃんが自由奔放に過ごしている姿を伝える写真82点を収録しています。

テレビもお風呂もない生活でしたが、家族三人の暮らす部屋の窓からは気持ちのいい日差しが差し込んでいました。まほちゃんの洋服のほとんどは誰かのお下がりでしたが、それはごく普通のことでした。まほちゃんは、両親から「勉強なさい」とか「これはやっちゃいけない」などとまったく言われることもなく、お母さんは「元気で遊べばそれが一番」だと思って娘を育てました。

●「まほちゃん」という固有名詞の写真集ではありますが、それは無名の一人の少女の幼年期でもあります。見る人それぞれが、自分の小さかった頃のこと、自分の娘の幼い頃のことを思い返すことでしょう。時代や世代を超えて、そこには平和な時間があります。

まほちゃんは一人娘でしたが、隣の家の仲良しのかよちゃんをはじめ、近所のお友だちといつも仲良く遊んでいたの、遊び相手はいつも傍にいました。お友達の来ない時は、一人でお絵かきをしたり、お母さんに本を読んでもらったり……。この写真集には、一人の女の子の、ごく自然な日常があります。まほちゃんのお母さんである潮田さんは、「この本には娘が写っていますが、それほどどこにでもいる女の子の姿でもあると思います。まほは放っておいたけど元気に育ちました。この写真集がこれから子育てするお母さんを勇気付けるものだと思います」と話していました。

●芸術家一族である島尾家の人たちがこの本には、さりげなく登場しています。

この写真集の著者である島尾伸三さんは、1948年に島尾敏雄・ミホの長男として生まれ、母の故郷である奄美大島で少年時代を過ごしました。そして、1978年に写真家である潮田登久子さんと結婚し、その年に長女の真帆ちゃんが誕生しました。まほちゃんが生まれたのは、島尾敏雄氏が『死の棘』などで数々の文学賞を受賞した年でもありました。その頃から茅ヶ崎に住んでいた島尾敏雄氏と島尾ミホさんや、伸三さんの妹のマヤさんなどの珍しい写真もこの写真集には収録されています。

本書巻末エッセイより抜粋

元気な赤ちゃんには「まほ」という名前が付けられ、ええ、私はこの小さな生き物が次第に可愛らしく思えるようになりました。赤ちゃんは、お下がりでもらったサークルベッドの中に置いてあるミルクを自分で勝手に飲んだり、玩具で遊ぶので、それを遠くから時々眺めるのですが、それだけで私は充分に楽しめました。

島尾伸三——「まほちゃん」のお父さんで、この写真集の撮影をした写真家

世田谷豪徳寺の古びた西洋館の二階の一室から始まった三人の生活は、まほちゃんが生まれて二カ月たった、1987年12月の末の頃からでした。南に大きく開かれた窓から冬の日差しがたっぷり入るその部屋を、私たちはいっぺんに気に入ってしまいました。その時から伸三さんと私の、まほちゃんがご機嫌に遊ぶ姿を見守る、平安な日々が続くのです。

潮田登久子——「まほちゃん」のお母さんで、やっぱり写真家

自分が大きくなったことを少し申し訳なく思う時があります。わたしが大人にならなければ、わたしたち家族は小さな家族のままだったかもしれない。小さな部屋ひとつの中家族3人で大きな窓から陽射しをあびて、いつも昼寝をしていたかもしれない。時に他人を家族よりも大切に思う事なんて、大きくならなければなかったのに、と。

しまおまほ——被写体である「まほちゃん」本人

本書内容に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

版元＝オシリス

〒150-0011 渋谷区東 3-21-14-402

電話 03-5485-0991 ファックス 03-5485-0993

mail: mailosiris@nifty.com